

年 組 名前 :

問1

かいようおせん などを 防ぐため、
 プラスチックストローなしで
 ちやくせつ の 学校給食用の
 かみ 紙パックの採用が広がって
 きました。
 ぜんこく とくに 導入が進んでいる
 3つの県はどこですか。

- 「 県」
- 「 県」
- 「 県」

問2

ぜんこく で消費されている
 給食用の牛乳パックを

すべて、プラスチックストローなし

パックに置き換えた場合、1年間にプラスチックを約何トが削減できるでしょうか。

「 ト」

問3

プラスチック製ストローを減らす一方で、環境面などに配慮した、さまざまなストローが
 出てきました。調べて、いくつか挙げてください。

.....

.....

給食牛乳脱ストロー 新パックでプラ削減へ

ストローなしで直接飲めるように工夫した学校給食用牛乳の新しい紙パックの採用が広がってきた。屋根状に折り畳まれた容器上部を手で開けやすい構造に変更。開発した日本製紙はプラスチックの使用量が削減できるとアピールしている。

給食用牛乳パックの容量は200ミリ前後で、家庭用の500ミリや1リットルのパックに比べ小さい。家庭用のように上部を開くのではなく、上部にストローを刺して飲むのが一般的だ。

日本製紙はストローなしパックの屋根状部分の側面に指を入れて押し、わずかな力で開封できるようにした。小学生でも開口部を飲み口にしてスムーズに飲める。

高知県で1月に初めて導入。北九州市と鹿児島県の小中学校や特別学校で採用が決まり、数十の地方自治体や乳業メーカーからも引き合いがある。北九州市では10月に試験的に開始し、来年4月には約200校でストローなしに変わる。鹿児島県南部の薩摩半島地区の約220校では今秋から順次採用される。

日本製紙は給食用牛乳パックで50%程度のシェアを持つ。ストローなしパックの拡大を見据え、子会社が茨城県石岡市と兵庫県三木市の工場に加えて茨城県五霞町でも来年2月から生産する。

ストロー1本の重さを0.5gとすると、北九州市で年約7ト、薩摩半島地区で約4トのプラスチック使用量をそれぞれ減らせる。給食用牛乳は全国で年約14億個消費されており、全てをストローなしパックに置き換えた場合には約700トの削減が可能となる。

日本製紙の担当者は「牛乳パックが環境教育の材料になれば」と話している。

(2021年8月22日付 山梨日日新聞 11面)